

ラヤンラヤン紀行

これは日本で初めての水中映像です。

この島には日本人として3人目で、1人目は衛生アンテナ工事関係者でした。

この島は1980年頃までマレーシア、ベトナム、中国の3国が領土問題で戦争し、国連で問題になった南沙(ナンサ)諸島の中にある島です。

満潮時にわずかな岩しか現れないところへリーフの中のサンゴをシュンセツして埋めたとし、マレーシアが無理やり領土宣言した島で、政治的に日本の南鳥島に似たマレーシア最北限の最重要軍事基地です。

1992年10月に海軍用の飛行場ができたが、定期便がなく、1993年8月にシンガポール人のグループがチャーターした飛行機に便乗して、やっと思うことが出来ました。

現地でダイビング中にマハティール首相が恒例の視察に来て、甥のダイビングショップオーナーから日本人がビデオの水中撮影していることを聞き、テープを置いて帰るよう強く要望されました。

しかし、テープが未編集でオリジナルのため、日本に帰って編集後のテープをプレゼントする約束をしました。

つまり、この作品はマレーシアのマハティール首相からの間接的依頼で制作したものです。首相が要望するだけあって、ダイビングオーナーの話では、おそらく世界初の水中映像と思われます。

大急ぎで編集しましたが3ヶ月を要し、旅行会社経由で首相の甥に送りました。

(怖い話し)

ある朝ダイビングするために船がリーフの外へ出てポイントへ行く時に突然、機関銃によるものスゴイ斉射撃の軍事訓練が始まり、慌ててUターンして引き返し、ポイントを変更しました。

マレーシア最北限の最重要軍事基地のため、遠目は良いが至近距離での基地施設の撮影は、当然ですが軍事機密のため禁止されました。

(見どころ)

- ・ ナイトダイビングでカムムリブダイが寝る時に敵から防衛するために、口から有毒な粘膜を出して自分の身体の回り全体に貼るシーン。
- ・ 岩の下で眠っている2m以上の大人しいオオテンジクザメを現地ガイドが、恐る恐る手で撫ぜるシーン。
- ・ マンタが水面移動をしているところを、ボートの最先端から身を乗り出して現地スタッフに抱えらながら撮影していましたが、ボートがマンタに近寄りすぎて身体に当たって逃げられたシーン。怒ったマンタから海水のオツリを浴びせられ、ビデオカメラがハウジングをしていなかったため、ビショビショになりました。
- ・ ENDの後の最後にダイジェストで登場した魚の名前を英語とヘボン式ローマ字で入れました。

以上
浜谷 優